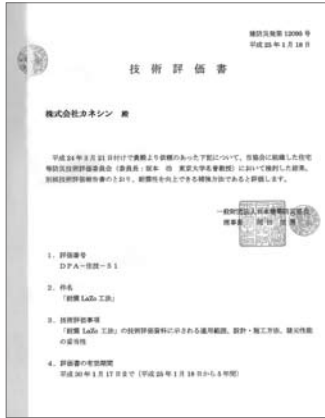


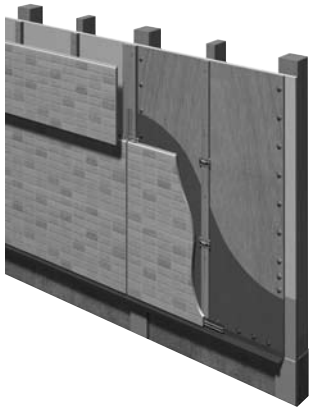
K²耐震LaZo工法

ケイミューとカネシン共同開発

屋根・外装材メーカーのケイミューと金物メーカーのカネシンは、耐震リフォーム工法である「K²耐震LaZo工法（ケイツーラソ）」を開発。カネシンの耐震LaZo工法を使い、既存の外壁の上に直接構造用面材又はMDFをはって耐震補強を行い、その後に胴縁を流してケイミューの外装材を重ね張りする工法である。耐震LaZo工法は、今年の1月に（財）日本建築防災協会（建防協）の住宅等防災技術

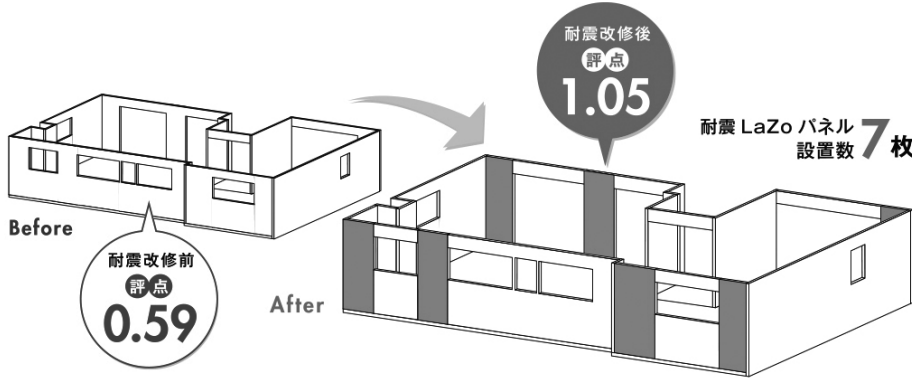


建防協の技術評価を取得



K²耐震LaZo工法（ケイツーラソ）

評価を取得した（評価番号DPA・住技51）。居住者としては「居ながら施工」が可能なので、引越しをする必要がないし、業者が家の中に入ることもないので、平常と変わりなく過ごせるといって面でもメリットがある。施工手順を見ると、まず耐震診断、耐震補強設計を行う。工事では柱脚プレートを取りつけ、シーリングをほどこす。耐力面材を取り付けるビス位置のコア抜きを行い、充填用



更に 重い屋根から軽い屋根に葺きかえた場合は評点が1.28になります。

耐震効果及び施工例

樹脂を注入。耐力面材をビス留めした後、シーリングして表面と柱脚プレートにコーティング樹脂（FRP）を塗布。サイディングで仕上げる。一般に外装材の外張り工事では、外張りする構造用面材に止水性や防水性能が保たれているかという点や、耐力面材をはった箇所とそうでない箇所の浮陸調整をうまく行っていない凹凸が出ないようにすることが課題である。建防協評価の内容には柱脚プレートと接触する耐力面材にもFRPを塗布することが義務付けられており高い防水性を備えている。カネシンではこれまでモルタル仕上げと同様の工法はあったが、外装材の施工に関しては浮陸調整が難しく、ケイミューと提携することで胴縁施工の浮陸調整の自由が利く新工法が実現可能となった。また、重たい屋根からケイミューの軽い屋根に葺き替えることで「減衰」にもつながり、評点を更にも上げることができる。リフォームの外装工事は8割が塗装、残り2割が金属系サイディングとも言われ、窯業系サイディングのリフォーム市場での浸透は遅れている。ケイミュー戦略企画室の小出氏によると、窯業系サイディングのメリットを最大限に活かした新商品で耐震改修の市場に進展を図りたいという。この工法を使うには設計・施工とも講習会を受講し、登録する必要がある（受講登録料1万円）、ケイミューの登録施工者のほか、カネシンの取引先等に広く呼びかけている。